

京都国立博物館「日本、美のるつぽ」

令和7年4月23日（水曜日）

参加者：4名



国宝、重要文化財を中心に、弥生時代の銅鐸から明治に作られた古伊万里まで、幅広く“美しいもの”を集めた展示会でした。その時代その時代で絵画や工芸品などいろいろなジャンルの美の完成品たちです。どの作品により心を惹かれるか？は観る人の感性によっていろいろですが、とにかく美しいものを観て感じるという事は人の心を豊かにします。

ということで、私は今回の展示会で俵屋宗達筆の“風神雷神図屏風”の原画をどうしても観たかったのです。この絵は、日本美術史の中で、間違いなく超一級品の最高の作品だと思います。風神と雷神のそのキャラクターのユニークさ、その愛らしさ、色合いのすばらしさ。風神も雷神もそれぞれに動きがあり、スピード感にあふれています。風神は右側から風とともにやって来て、雷神は左上から雷光とともに降りてきた。まさに、空中に浮かんだ二神が今ここで出会った。さらに、よく観ると風神の風をはらんで膨らんだ袋と体に巻き付いてはためいている紐が画面の右端で切れている。雷神のほうは、天鼓の右上端がやっぱり切れている。この「端を切る」ことによって画面の外に広がるさらなる空間を想像させます。四百年もの昔に、こんな風に瞬間をとらえ、空間を表現した絵が存在することに感動します。



昼食は博物館内にある前田珈琲で名物のたまごサンドとコーヒーを頂きながら、皆様といろいろお話ができました。

美味しかったです。

帰りに博物館の隣にある養源院に立ち寄りました。俵屋宗達が30代に描いた「白象」を観に行きました。像の表現や筆のタッチはもちろんのこと、その考えつくされた構図や構成の奥深さはさすがでした。俵屋宗達恐るべし!!



とても楽しい一日でした。
ご同行頂いた皆様、ありがとうございました。

作成…風井